

# 全国 保健師長会 だより

## 第40回全国保健師長会 代議員総会

平成30年11月10日(土)に愛知県名古屋市内において第40回代議員総会が開催されました。

冒頭、青柳玲子会長から「全国各地で発生した地震、豪雨災害へのお見舞いと被災地および全国から派遣された保健師の活動に對して感謝すると共に、本会としても平時からの健康危機管理体制のさらなる充実強化の取り組みが急務である。本会発足から40周年を迎え、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、国民の健康課題も複雑多様化する激動の時代のニーズに對応できるように、本会も大きく活動の場を広げ躍進してきた。40周年の節目を契機とし、専門性の高い公衆衛生看護活動をさらに推進

# 第40回全国保健師長会 代議員総会報告

全国保健師長会 会長 青柳玲子

できるような各種事業や組織体制・機能を強化していく」とのあいさつがありました。

平成31年度の活動テーマは、「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開―みる・つなぐ・動かす―保健師の原点から住民とともに創る未来―」です。活動方針は、1. 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化 2. ブロック、支部活動の強化 3. 各自治体における災害時対策の取り組みの促進と被災地における保健師活動の発信 4. 会員数の拡大―となりました。提案された議案のうち、第1号議案から第9号議案まで承認され、第8号議案では、年度内に完成する「災害時保健活動マニュアル」の周知と各自治体が策定するマニュアルとの整合性や活用上の課題などについて情報収集するため、災害保健活動特別委員会の新設が承認



第40回全国保健師長会代議員総会の様子

されました。第10号議案の会員資格に関する規約改正については、出席者の3分の2以上の賛成を得られなかったため否決となりました。

役員・推薦委員の改選については、会長に山野井尚美氏(現副会長)、他副会長3名、監事1名、推薦委員3名が選任されました。

局医監の平田宏幸氏、全国保健師長会会長の山中朋子氏、公益社団法人日本看護協会会長代理専務理事の勝又浜子氏から全国保健師長会への期待を込めたメッセージをいただきました。

リレートークは、青柳会長を座長に、第10代会長の大場エミ氏、第11代会長の加藤静子氏、第12代会長の鎌田久美子氏が登壇しました。

大場氏は、「今の保健師活動を見ると、これで大丈夫なのかというのが正直な気持ち」と切り出し、「保健師自らの力で保健師活動の5年先10年先のビジョンを描く必要がある」と述べました。

また、保健師は健康の視点で地



「歴代会長によるリレートーク」の様子

域づくりを行う唯一の職種だが、そこをうまく実施できずに苦勞している自治体もあることや、従来保健師が行ってきた活動が多職種で行われるようになり、それらの関係者と連携し支援する時代へと大きく変わってきている。さらに、複雑困難事例に對応する若手保健師には保健師としてのマインドや力量が十分でない方もおり、どうやって育成していくかが大事である。しかし先輩保健師も複雑困難事例や行政職としての計画づくりや予算、議会対応等にエネルギーを費やされ、OJT等の仕組みは作られているが十分でないことを危惧されました。

そのような現状を改善するため、長年培った経験やスキルを持つ退職保健師が若手の育成に尽力することを提案し、神奈川県における退職保健師と現役若手保健師による自主的な学習会への支援を紹介されました。

加藤氏は、「日本はさらに超高齢社会となっていく。住民が地域で安心して暮らせる仕組みを保健師が公衆衛生の専門職として築いていかなければならない」とし、「保健師に求められることとして、住民から頼りにされる保健師を目指す

す必要がある、行政の他部門、住民から持ち込まれた声や意見には真摯に向き合って耳を傾けていただきたい。入り口でシャットアウトしてしまうと住民の健康は良くならない。自身の活動を振り返り、この活動が住民のために役立つのか内省し、仕事の棚卸しをしていただきたい」と述べました。さらに、会長時代を振り返り実現できなかったこととして、「50周年に向けて会員の拡大(中堅期、若い保健師も会員とする)」と法人格の取得について議論していただいた」と求めました。

鎌田氏は、「社会の変化の中で保健師に求められる役割も変わる。新しい取り組みには苦勞も多いが、やりがいもあることを忘れずに前向きに取り組んでほしい」と呼び掛けました。

さらに、「地域の在るべき姿、自治体の在るべき姿を描き、さまざまな活動に取り組んでいくことで想像を超えた効果に気付く。保健師の活動を支える信念、地域への愛着、住民から得る感動や喜び、住民主体の地域づくりを信念の基本とし、若い保健師と共に進めていただきたい」と述べました。また保健師には、「住民の健康問題を

最後に次期開催地である岡山県支部長の西尾恵氏よりあいさつがあり、閉会となりました。

## 40周年記念事業 「歴代会長によるリレートーク」

代議員総会終了後に行われた40周年記念事業は、オープニングに広報委員会が作成した保健師長会の活動を紹介するスライドショーが上映され、「未来を創造する保健師活動について―後輩保健師たちに伝えたいこと―」をテーマに、歴代会長によるリレートークが行われました。

青柳会長は冒頭のあいさつで、「記念すべき40周年の節目を重要な契機と捉え、みる・つなぐ・動かす保健師の原点を再認識し、専門性の高い公衆衛生看護活動をさらに推進できるように、各ブロック活動の充実強化や研究事業に積極的に取り組むと共に、次世代を担う保健師の成長を支援しながら、全国の保健師のつながりを強化していく」と決意を述べました。続く来賓祝辞では、厚生労働省健康局長の宇都宮啓氏、愛知県知事代理健康福祉部保健医療局長の松本一年氏、名古屋市長代理健康福祉

見過ごさないよう科学的裏付けに基づき、専門家として住民の健康問題に関わってほしい。そのため専門職は給料の1割を自分を磨くために使い、感性を磨き、継続して力にし、もの見方を広げ深め、プロとして勉強することが必要である」と述べ、リーダーには、「保健師の使命感と誇りを持って、目先のことだけにとらわれず、本質を見極める力、臆せず一歩を踏み出す勇氣と決断を持って前進してほしい」と求めました。

歴代会長から後輩保健師への熱いメッセージが語られ、最後に座長の青柳会長から、40歳保健師のメッセージが紹介されました。「保健師のリーダーとして、社会や地域の変化を直視し地域で活動することの強み、公的機関の専門職として地域に責任を持つことの自覚を後輩に気付かせ、対象者や地域の身近にいる保健師として観察力、判断力、実践力を信じて背中を押せるリーダーであり続けることが大切。保健師活動の大きな目的は、地域で暮らす人々の命と健康と生活を衛(まも)ることである」と本会のさらなる発展に向け志を力強く述べました。

(文責＝広報委員会)